

茅野市立永明小中学校



外観

「茅野市立永明小中学校」は、2024（令和6）年4月に開校した施設一体型小中学校。水平線を強調した端正な外観が特徴。今後は、アリーナやメイングラウンド、駐車場などが整備され、2026年に全工事が完了する予定。



内観

中庭やテラス、ハイカウンターを設け、児童生徒が自然や緑を感じながらコミュニケーションがとれる場を設けている。階段状のプレゼンテーションスペースは、大人数での発表の場に対応するスペースと設備を備える。



メディアセンター

授業時間と休憩時間を豊かに両立させる、広いメディアセンターは、動線の要となる校舎の2F中央に配置することで、本を介した児童生徒の日常的な交流や、小・中学校相互で図書利用ができるメリットを活かしている。



メディアセンター

メディアセンターには、さまざまなタイプの椅子や机を用意した閲覧スペースを設けており、扉で仕切ることができる空間も用意。それぞれの学習スタイルや休憩の過ごし方にあわせて使用することができる。



1F低学年 教室

小学校低学年の教室は、教室から直接中庭に入ることができる。畑などでの作業後にも、しっかり手洗いできるように、教室内に手洗い場を設けている。



1F低学年 女子トイレ

低学年のトイレ内装テーマは「縄文文化」。縄文時代の暮らしや道具などをモチーフに、児童が考案したデザインから18点を選定しモザイクタイルで施工。施工ワークショップでは児童も参加して制作している。



2F南トイレ入口

2Fトイレ入口前に水作業が行える洗面コーナーを設け、自動水栓を1ヶ所設置。ベンチも用意され、荷物を置いたり、休み時間などの児童交流の場としても使用される。



2F北トイレ 洗面コーナー

2F北トイレの内装テーマは「御射鹿池」。アイランド型の洗面コーナーは、トイレ全体を見渡すことができる。さらに、荷物が置けるベンチやスタイリングコーナーを設置するなど、細やかな配慮がなされている。



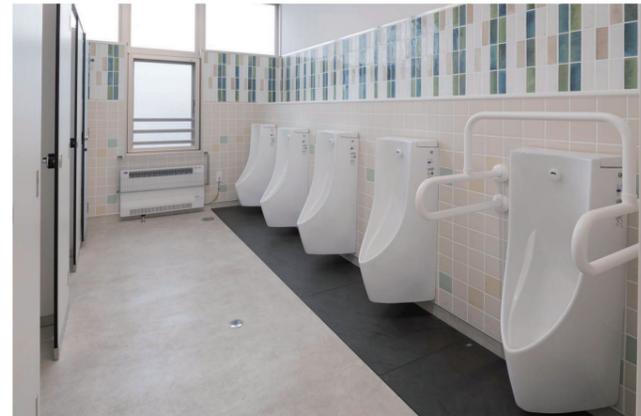
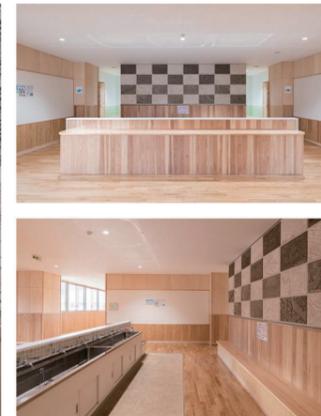
2F北トイレ 大便器ブース

内装テーマである「御射鹿池」の水面に映す四季折々の様子を表現。大便器は、パブリックコンバクト便器・フラッシュタンク式を採用。大便器ブースの各1ヶ所にはL型手すりを設置している。



3F南トイレ入口

中学生トイレ入口の壁は、2023（令和5）年に永明中1、2年生と米沢小学校6年生による土壁左官ワークショップで制作したもので、治具を用いて縄文土器の表面のような模様を表現している。



3F南トイレ 小便器コーナー

3F南トイレの内装テーマは「白樺と白樺湖」。長野県の県木である「しらかば」を長方形のタイルで表現。小便器は、清掃性に優れた壁掛型の自動洗浄小便器を採用。冬の寒さに備えてパネルヒーターを設置している。



3F北トイレ 小便器コーナー

3F北トイレの内装テーマは「ハヶ岳と紅葉」。色鮮やかなタイルを斜め張りすることで、雄大な山並みを表現。小便器の足元には、抗菌・抗ウイルス効果のあるハイドロセラフロアPUを設置している。

茅野市立永明小中学校



トイレサイン

トイレの内装やさまざまなサインは、椋山女学園大学橋本研究室の学生と協業で、茅野市の自然と文化をモチーフにしてデザイン。サインはピクトグラムではなく、縄文時代の道具や周辺の山々をモチーフにしている。



職員トイレ入口

職員トイレに多機能トイレを設置し、児童生徒の移動時や、皆と同じトイレを使うことに抵抗を感じる時などにも利用しやすいよう配慮している。



職員トイレ 多機能トイレ

各階に1ヶ所ずつ多機能トイレを設置。車いす使用者や、オストメイトのほか、乳幼児連連れの方など幅広く利用できるように配慮がなされている。



保健室

学年にあわせたケアができるようにと、保健室は小学生用と中学生用を設けている。それぞれの保健室には、ベッドや水まわりを完備しており、トイレにはウォシュレットを設置している。



保健室 水まわり

保健室に併設されるシャワールームには、万が一の汚れなどに備えて、洗濯機とマルチシンクを設置。手洗器には、衛生面に配慮して自動水栓を採用している。



来客用玄関・通級指導教室入口

生徒の昇降口とは別に、児童生徒も利用可能な来客用の玄関を2ヶ所設置。昇降口や教室前を通らずに、相談室や通級指導教室に通うことができる。教室の前には手洗い場と荷物が置ける棚を設置している。



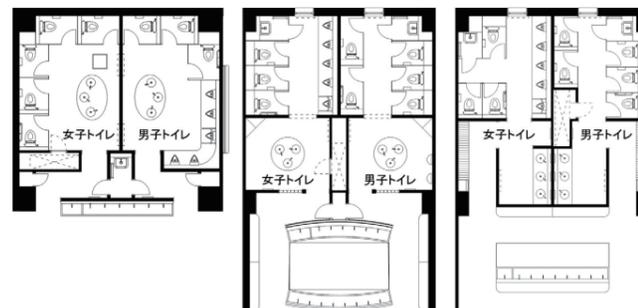
通級指導教室トイレ

通級指導教室の隣には、トイレと洗面コーナーを設置。ほかの児童生徒と会うことに抵抗がある場合にも、安心して利用できる配慮がなされている。



特別支援教室

特別支援教室は、障がいの特性にあわせて部屋を分けている。授業中トイレに行った児童生徒を教室から見守れるよう、教室のすぐ横にトイレを設置。特別支援クラス(知的)には、家電などを用意、授業で活用している。



トイレ図面

トイレは、内装デザインだけでなくレイアウトも3つのパターンを採用しており、同校舎内で9年間を過ごす中で、進級した実感をトイレの空間という面でも感じてもらえるよう配慮している。

水まわりの特長

建物の特徴

茅野市では「第1次茅野市小中学校管理計画」に基づき、建築後45年以上経過し老朽化した「永明小学校」と「永明中学校」を同時に整備、両校が隣接した土地に「茅野市立永明小中学校」を新設。さらに、地区コミュニティセンター、保育園など周辺公共施設との連携を見据え、諏訪地方で初の施設一体型小中学校とした。設計に際しては、策定委員会や教職員、児童生徒を対象としたワークショップを開催、市内他校の教職員にもヒアリングを行い、さまざまな意見を収集した。県産材をふんだんに用い、木の温もりに包まれる新校舎は、交流・共有ゾーンを中心に据え、中庭を介して8の字動線で各ゾーンがつながる、コンパクトな計画。1Fは小学1・2年生、2Fは小学3～6年生、3Fは中学生の普通教室が設けられている。

水まわりの特長

校舎各階のコンセプトである「土」「水」「森」をもとに、茅野市にゆかりのあるモチーフを大切にしたいトイレ内装デザインを作成。9年間同じ校舎内で生活する児童生徒が進級を感じる工夫を水まわりで表現するため、3つのレイアウトパターンと「八ヶ岳と紅葉」「縄文文化」など7つの内装デザインで構成、同じ器具を採用していても、それぞれが個性的なトイレとなっている。さらに、校内には多くの手洗い場を配置し、いつでも手が洗える環境を整備。衛生面の配慮から非接触で使用できる自動水栓も一部に設置している。サインやトイレの内装は、地元で親しんでもらえる水まわりを目指し、椋山女学園大学橋本研究室の学生と協業で茅野の自然や文化をモチーフにして考案した。

建築概要

名称	茅野市立永明小中学校
所在地	長野県茅野市塚原1丁目地内
施主	茅野市
設計	東畑・茅野市設計事務所協会設計共同企業体
施工	建築 カネトモ・田村建設特定建設工事共同企業体 電気 南新電気工業・平澤電気工事特定建設工事共同企業体 機械 共進エネーブ株式会社
竣工年月	2024年1月
敷地面積	16,004.01㎡
建築面積	5,760.72㎡(校舎棟)
延床面積	14,186.08㎡(校舎棟)
構造・階数	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・地上3階

おもなTOTO使用機器

- パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B
- ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコロモコン):TCF5524AUP
- ウォシュレットアプリコット:TCF4734特
- ウォームレットS:TCF116
- 棚付二連紙巻器:YH702
- 自動洗浄小便器:UFS900R
- ハイドロセラ・フロアPU:AB680BR
- 洗面器:L530
- 壁掛洗面器:L270CM
- 壁掛手洗器:LSE570AP系、LS*870AS系
- 台付自動水栓:TLE33002J、TLE26SS1A
- 壁付自動水栓:TLE26SP1W
- 水石けん入れ:TLK05202J
- 横水栓:T200BSQ13系
- 立水栓:TLC11AR
- コンパクトオストメイトパック:UAS81RDB2NW
- ペーパーシート:YKA25S
- パブリック用手すり:T112CL10、T112CU22、T113BL11T113HK7R
- 化粧鏡:YMK52K